

検証 JR革マル浸透と組織私物化の実態！

民主化闘争情報[号外] 2010年2月17日 発行 日本鉄道労働組合連合会(JR連合)【No.91】

JR総連書記長は「申し込みあれば別荘をお貸しはする」と弁明！

2003年9月以降、家宅搜索を受けたり、厚生労働省の「改善勧告書」を受けたりして大慌てのJR総連と事業協会。2004年2月6日に渦中の「目黒さつき会館」で開催されたJR総連中央委員会の総括答弁で、山下書記長(当時)は以下の通り述べた模様である。

私は福祉事業協会の理事も務めているのではっきりさせておくが、協会は、確かにいくつかの物件を所有している。この目黒さつき会館もそうである。これは財団法人であるから、公益のために事業を行うものであり、広く勤労者の利益に寄与するように、会館はどなたでも宿泊、会議もできる。いくつかの別荘についても、申し込みがあればお貸しはする。ただ、実際には余り使っていないので老朽化しているものもある。元々計画自体がバブルの頃のものであったので、価格が下がり損をしているという事実はある。結果責任はあるかも知れないが、そういう事業を行ってきたので何ら不正の事実もなく、横領だとか脱税だといった事実は一切ない。

前号では、日本鉄道福祉事業協会の白々しいパンフレットを紹介したが、とても積極的に利用をPRしているようには見えない。山下書記長の答弁をみても、別荘はあまり使って欲しくはないようだ。協会の保養施設に泊まる勇氣ある一般組合員も少ないだろう。

ごく特定の者だけに便宜を提供する福祉団体が許されてよいのか！

パンフレットによれば、協会は、今帰仁村以外にも、宮古島や群馬県嬭恋村の保養施設を所有していたことがわかる。これらの別荘の購入の経過やその後については、西岡研介著「マングローブ」に東労組元中央執行委員のA氏の話をもとに詳述されている(p.104~)。

「これら松崎が所有しているハワイの別荘の存在は、JR東労組の一般の組合員はもちろんのこと、われわれ幹部ですら、まったく知りませんでした。松崎がどれほど“国鉄改革を労働組合側で推進した偉大な指導者”であっても、これだけの資産を形成できるわけがない。このためJR東労組内部でも03年以降から公然と、松崎の組合費の指摘流用疑惑が指摘され、組織の私物化が批判されるようになったのです。名目上、「鉄福」(注：日本鉄道福祉事業協会)が所有しているとされている沖縄・今帰仁村の別荘も、実質的には松崎のものでした。その証拠に、鉄福の会員であるJR総連の一般組合員が、その存在すら知らなかったのですから。つまり鉄福は、松崎の資産の「隠れ蓑“なのです”(A氏) - (中略、「鉄福」の説明) - 「しかし、それはあくまで『鉄福』の“表の顔”。鉄福の理事長は長年、『松崎の金庫番』といわれたSという人物が務めてきたのです。このため松崎が実質的に所有してきた別荘のほとんどが、鉄福名義になっているのです」(A氏) - (中略) - 「これは後になって明らかになるのですが、鉄福は同じ沖縄の宮古島にも別荘や土地を所有していたのです。 - (中略) - 鉄福の所有する(注：宮古島の)別荘は、島の南部の海岸近く、宮古郡城辺町の「友利」という集落にあった。 - (中略) - 登記簿によるとこの土地は90年6月2日、01年3月16日の2回にわたって、鉄福が購入。建物は02年10月4日に鉄福が新築している。地元で農業を営む男性はこう語った。「JRの労働組合の保養所だと聞いていますが、訪れるのはいつも50~60歳代の男性が5、6人。若い人が来たのは見たことがありません。 - (中略) - いつも、朝7時くらいに紺色のワゴン車に乗ってゴルフに出かけています」

男性5、6人とは松崎氏の一行のことか。協会は、勤労者の福利厚生を目的とする財団法人のはずだ。ごく特定の者だけに便宜を提供する事業運営が許されてよいはずがなからう。

「検証・JR革マル浸透と組織私物化の実態！」はJR連合ホームページに掲載中！ <http://homepage1.nifty.com/JR-RENGO>